

〔所 感〕

長崎市議会議員 深堀 義昭

福州市友好都市提携 30 周年記念訪問団に参加して

福州市との友好都市 30 周年を記念して、親善訪問団 96 名とともに、8 月 23 日から 8 月 27 日まで 5 日間の日程で、中国の福州市及び上海市を訪問してきました。

8 月 23 日、長崎空港を出発し、当日の午後 6 時 30 分から公式訪問団として福州市を表敬訪問、その後、歓迎レセプションに出席しました。表敬訪問、歓迎レセプションともに熱烈な歓迎を受け、30 周年記念訪問のスタートとなりました。

翌 24 日、私は、経済交流団の一員として、馬尾港コンテナ埠頭を視察し、午後からの経済交流会議に参加しました。会議の第 1 部では、「福州市の経済、投資状況について」、福州市外経貿易経済合作局長から説明を受けた。福州市の貿易、特にコンテナ基地の拡大等について話をされ、特に国内外の有志者にとって福州市の経済を舞台にした経済活動に門戸を広げるという説明をされた。

また、第 2 部の記念講演では、長崎出身で香港を中心に活躍されている川副氏による「香港、中国華南の経営環境とビジネスチャンス、リスクマネジメント～アジアとの形成、それに求められる経営資源」と題しての講演を聞くことができた。これは今後の参考になる話で、非常に感銘を受けた。

その中で、一番問題となるのは、日本から進出する企業の出資金等について、融資の範囲内での日本国内の整備状況等が問題になっていくと思われる。現地進出企業については、大手企業の OB が経験を生かして進出をしているが、全くの素人が行くということになると、特殊な技術を持ったとしても、それをどのような形でノウハウを教えるのか、中国向けに販売をどうするのか、逆技術的な商談をするのかということが、今後の企業進出の大きな課題になるのではないか。

ただ、行政が門戸を広げた形での経済交流を促すという意味からは、それなりの成果が期待できるし、また、福州市そのものが長崎からの受け入れに対して非常に積極的であるということを見ると、腰を据えた環境づくりを行いながら、今後の長崎市と福州市との経済交流の礎になるような努力をしなければならないということを実感したところである。